

新「卵用名古屋コーチン」の育成期の体重と飼養管理について

～育成期の体重測定は収益の向上につながる～

中村明弘（農業総合試験場 企画普及部 広域指導室）

【平成26年4月15日掲載】

【要約】

育成期の体重は、鶏群の成長状態を客観的に把握できるデータであるとともに、成鶏期の産卵成績の改善に役立つ重要な指標である。新「卵用名古屋コーチン」では、120日齢時の体重の変動係数を5～6%程度となるように育成期の飼養管理を行えば、その後の産卵能力を十分に引き出すことができる。

1 はじめに

2013年に産卵能力が高く、卵の商品性も増した、新「卵用名古屋コーチン」の供給が始まり、県内採卵鶏農家での飼養が開始された。ここでは、新「卵用名古屋コーチン」の産卵能力を十分に発揮させるため、育成期の体重測定の重要性について説明する。



写真1 飼養農家における育成期の新「卵用名古屋コーチン」

2 体重測定の意義

ひなの導入から産卵が開始する前までの育成期に体重測定を行うことは、鶏群の成長状態を把握する上で重要である。さらに、産卵前の雌鶏の仕上がり状態は、その後の産卵成績を大きく左右する。そのため、体重測定を日常作業の一つに組み入れて育成期の鶏を管理することはリスクマネジメントにもなり、収益の向上につながる。

3 体重測定のポイント

(1) 測定日齢

表1に農業総合試験場が調査した新「卵用名古屋コーチン」の育成期体重の推移を示した。この結果を標準体重として、発生から30日おきに体重測定を実施することが望ましい。

表1 新「卵用名古屋コーチン」の育成期体重の推移						単位：g
日 齢	30日 齢	60日 齢	90日 齢	120日 齢	150日 齢	
測定時期	5月中旬	6月中旬	7月中旬	8月中旬	9月中旬	
体 重	312	816	1,292	1,530	1,885	

注) 体重測定は2007年4月17日、2008年4月15日及び2010年4月20日に発生した鶏群で実施し、表中の体重は3回の調査の平均値を示した。1回の調査の測定羽数は20羽で実施した。

中村ら（2011年）

(2) 測定羽数

体重測定は鶏群のバラツキを確認するため、個体毎に測定する。測定羽数は多ければ多いほど精度は高まる。一般的なコマーシャル鶏の飼養管理マニュアルでは、1鶏群当たり最低100羽の体重測定を推奨しているが、新「卵用名古屋コーチン」の場合、通常、1回の導入羽数の規模が小さいので、30～40羽程度の体重を継続して測定するとよい。

(3) 体重測定時の注意事項

体重測定を行う個体は無作為に選ぶが、できる限りいつも同じ個体で測定する。そこで、体重測定を行うケージを常に決めて、その中の全羽数を測定する。さらに、鶏舎内の位置による体重のバラツキも確認するため、鶏舎内で異なる位置にあるケージを数か所選んで体重測定を行う。

(4) 鶏の状態をチェックする

体重測定で捕鳥した鶏は、見た目や触った状態で成長や健康の状態を観察する良い機会であるので、併せて確認を行う。

(5) 測定値の利用方法

体重の測定値を用いて、平均値、標準偏差及び変動係数を計算する。平均値は、標準体重の数値と比較して、成長の度合いを確認する。変動係数は、標準偏差を平均値で除し、100を乗じたもので、体重のバラツキを確認できる指標である。体重の変動係数は8%以下であれば、その鶏群は個体間のバラツキが少なく、斉一であると判定される。

(6) 育成期における体重管理のポイント

30日齢時は、充実した骨格を作る上で基礎となる時期であるため、標準体重プラス10%を目標に大きめになるように管理する。60日齢以降では、標準体重に近づくように管理するが、季節によって体重は大きく変動するので、成長の度合い（平均値）よりも体重のバラツキ（変動係数）を少なくすることを重視して管理する。

4 県内採卵鶏農家における新「卵用名古屋コーチン」の育成期体重

県内採卵鶏農家10戸で飼養されている新「卵用名古屋コーチン」の育成期体重を測定した結果を表2に示した。90日齢及び120日齢時の全農家の平均体重は表1と同程度の数値であったため、表1が新「卵用名古屋コーチン」の標準体重として利用できることを裏付ける結果であった。

I農家では、1月に測定した120日齢時の体重が9月に測定した体重と比べて約200g重かったように、季節によって体重が変動することが確認できた。

また、120日齢時の変動係数が6%台と低かったB及びH農家の鶏群は、その後、産卵開始時期が早く、ピーク時の産卵率が高く、産卵初期の卵重が早く重くなるという好成績が得られていた。これらのことから、産卵前の体重のバラツキを少なくなるように飼養管理することが、新「卵用名古屋コーチン」の産卵能力を最大限に引き出すために重要であることが確認できた。

表2 県内農家における新「卵用名古屋コーチン」の育成期体重

日 齢	農家	測定日	測定羽数	平均値	変動係数
			羽	g	%
90日 齢	A	5/16	28	1,381	7.4
	B	7/17	28	1,246	7.1
	C	5/17	20	1,211	9.8
	D	5/29	8	1,369	—
	E	4/30	30	1,269	7.2
	平均			1,295	
120日 齢	A	6/17	28	1,686	8.0
	B	8/5	28	1,526	6.3
	D	6/26	8	1,719	—
	F	8/20	30	1,493	8.8
	G	12/25	33	1,544	7.2
	H	11/15	30	1,666	6.5
	I	9/20	30	1,487	8.0
	I	1/16	30	1,702	8.2
	J	10/17	35	1,428	9.6
		平均			1,583

注1) 体重測定は2013年4月～2014年1月に実施した。

注2) B農家の120日齢時の体重は109日齢に測定した。

注3) I農家は発生日の異なる2鶏群で測定した。

5 まとめ

- (1) 新「卵用名古屋コーチン」の体重測定では、表1を標準体重として利用できる。ただし、測定時の季節によって、体重は変動するので留意する。
- (2) 120日齢時の体重の変動係数を5～6%程度となるように育成期の飼養管理を行えば、新「卵用名古屋コーチン」の産卵能力を十分に発揮させることができる。

6 引用文献

中村明弘ら. 新型「卵用名古屋コーチン」の性能調査. 愛知県農業総合試験場研究報告. 43, p.119-125(2011)